
幼馴染の彼をオトす為に普通少女が頑張る話

蝶乃 みなと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幼馴染の彼をオトす為に普通少女が頑張る話

【Nコード】

N0047BA

【作者名】

蝶乃 みなと

【あらすじ】

幼馴染の美紀と真志、美紀は至って普通の女の子だけど真志はかなりの顔の良さ。（皆はこれをイケメンという）美紀が真志と付き合うことを夢みて色々頑張るお話です。でも高校生活には色んなハードルや試練があるので応援してあげてください（´・`・´）

幼馴染の彼と高校で同じクラスになれるのかドキドキの件(前書き)

新感覚な感じで書いてみました(´・`・´)
良かったら読んでみてください
三

幼馴染の彼と高校で同じクラスになれるのかドキドキの件

「美紀^{ミキ}ってさ、なんで太っちゃった訳？」

中学校最後（卒業式）の下校の時に
幼馴染の持田^{モチダ}真志^{シンジ}が爆弾発言。

え、てゆうかレディーに向かつてそんなこと言う人いるの？
この世に存在することすら知らなかったわ！
てゆうか太ってないし！結構これでも痩せてるほうだし！
てゆうかデリカシーない男だな！

まあその後私はダイエットで3キロちよい痩せた。

私、原田^{ハラダ}美紀^{ミキ}は真志とは幼稚園の頃からの幼馴染で
小さい頃から顔が良かった真志（はつきり言えばイケメン君）
に群がる女を駆除するのが

昔から私の仕事だった。

私たちは高校一年生になった。

真志と私は当たり前みたいに同じ高校に入った。

そこらへんが幼馴染の特権。
いつになっても離れないこと。

高校生と言えば恋の発掘現場、恋を発掘しまくれる場所とい
う訳で。

もちろん顔が良い真志は女子生徒の注目の的という訳

真志は空気も読めなければデリカシーもないという男だけど

イルに

そのさつぱりした性格が女の子にはツボらしく、真志のスマ
イルに
何人もの女がオチていくのを見てきた。

私が真志に群がる女を駆除してきた理由は他でもない。

私が！真志に！惚れているからである。

あわよくば真志と付き合いたい。

私の容姿だと幼馴染という設定がなければ近づくことも触れ
ることさえ

一生叶わない夢だったと思う。

そこには神様と産んでくれたお母様に感謝するが、どうせ神
様なら

私と真志をくつつけて下さい、死んだら私が次の神様になっ
てあげるから！

そろそろ高校生になった私たちの話をします。

高校で一番大事なものは『クラス発表』！

んでね、高校のクラスは4クラスまであったわけ。

私が真志と同じクラスになれる確率は低くもないし高くもな
いという

微妙な確率。

ドキドキしながら見ていると、真志が叫ぶ。

「あ、俺1 - 4だわ」

1 - 4!?

私は急いで1 - 4のクラス名簿を見た。

私の名前は原田だから真志より前のはず。

目を凝らして見てみると、原田、原田・・・あった！

私の目の中には紛れもない『原田』の文字が！
ヤッタ〜もう神様ありがとございませう、一生このご恩は忘
れませぬ。

「真志、私も同じクラ」

「おつ美紀のクラス見つけ、1-1じゃん」

・・・はい？

あのあのあのあのすみません

さつき私のクラスが1-1だと言いましたか？

私は1-1のクラス名簿を見る。

ん！？私の原田美紀という名前が。

じゃあ1-4にいた原田は・・・んん！？

原田・・・さとみ？

同じ苗字の原田さん。

見ず知らずのあなたを呪います。

くっそ、こういう間にも真志を狙ってる女子がいるっていう
のに。

周りを見渡せば真志を見てキヤツキヤツ騒ぐ女子たちの群れ。

真志はいままでにつき合った女子はいない。

（私の駆除のおかげなのか真志が付き合う気がないだけなのか
わかんないけど）

ああもうなんで同じクラスじゃないの！

神様とかもう信じない絶対信じないあああああもう嫌

「クラス離れちゃったなーでもまあ昼休みに会いに行くから」

「う……うん」

真志iiiiiiiiii(泣)

高校生活……クラス離れちゃったし今まで以上に警戒しなければ。

女子高生は怖い、きっと怖い、肉食系、絶対野獣、絶対ハイエナ。

入学初日で友達ができるかできないかの件

GO

仕方なく真志と別れた私は未知の領域となる高校生の教室へ

真志も居ないし鬱鬱鬱鬱

おっとダメだぞ

昼休みには真志が来てくれる！

それまでに何とかしないと。

とりあえず教室で同族を見つければ最高なんだけど。

これから一年一人で過ごさなきゃいけないとなるとか嫌だし！

私は少ししかない勇気を振り絞って教室のドアを開けた。

イタ ！！！！

清纯派女子、ビバ純粹女子！

窓際で本を読む超美人なあの子はきっとハイエナなんかじゃないし

男漁りとか合コンとか不純異性なんちゃらとかいうのとは無関係な領域に

凜とたたずむ純粹でマトモ、真面目女子！

私は自分の席を確認する。

えっと・・・あつたあつた、窓際！

あの清纯派女子の後ろだ！

今さらだけど最高にツいてる（＾＾）！

これならなんとなく仲良くなれるハズ。

私は清純派女子の後ろの席に座ると後ろから肩を叩く。
どんな声でどんな優しい心の持ち主なんだろう！

「何か？」

「えっと、後ろの席の原田美紀。よろしくね」

「私は小島紗羽、こちらこそよろしくね」

キタキタキタキタキタ

!!!

この反応は優しくて清潔で純粋な子の反応である。

「よかつたら話さない？」

「いいよ」

「どこ中出身なの？」

「私、ハラ中なの」

「ハラ中って小原中！？結構遠いところから来たんだね」

「うん、原田さんは？」

「あ、原田さんじゃなくて美紀でいいよ」

「あ、ほんと？じゃあ美紀って呼ばせてもらおうかな。」

私の事も紗羽でいいよ」

「じゃあ紗羽って呼ばせてもらうね。」

私はすぐその新中だよ」

「そうなんだー、あ、もしよかつたらアド交換しない？」

「あ、するする！」

これすごい良い展開じゃない！？

さっそく新しい友達出来たしこれで一年間は絶対安心。

あとの心配は真志だけ。

真志と付き合えれば青春真つ盛り！て感じて良かったのに。

「美紀は彼氏とかいるの？」

ヴツ・・・まあこの話題は逃れられないか

「私は・・・まあ好きな人はいるけど」

「へえ！誰？同じ高校？」

「ん・・・んまあね」

「へー頑張ってるね」

あ、あんま追求してこない？

それはそれで有難い。

無駄に追求してくる人っているよねー

私はそういうの無理派だし。

入学初日に出来た友達の良い人だった。

いまのところそれだけが救い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0047ba/>

幼馴染の彼をオトす為に普通少女が頑張る話

2012年1月1日02時46分発行